

## 快晴～ハイサイ～立ち上がろう

### —第12次日退教沖縄交流団報告—

#### 1、快晴のもと「11・23県民平和大集会」

沖縄の空は雲ひとつなく、奥武山公園の会場は1万人の人々で埋まった。主催は「沖縄を再び戦場にさせない県民の会」。12月になろうというのに沖縄は暑い。汗をふきふき18名で参加。

若者代表で桑江優稀乃さんが「安心して生きていきたい」「また戦場になる、なぜ沖縄ばかり。ミサイルもフェンスもない平和の島を」と訴えた。また桑江さんの歌声“ヘイヨー、ヘイヨー、愛(かな)し思産子(うみなしぐわ)～”のびやかな声が会場いっぱいに広がり皆の思いがひとつになって青空に吸い込まれていくようだ。

各地からの報告で、軍拡が進む島々の変貌に驚く。「小さな島は自衛隊員が人口の17%を占めるようになった」「通信基地設置の約束が破られ、ミサイル基地になる」「弾薬庫と戦時の退避地下壕が作られる」「日米合同訓練で軍隊が市街地を我が物顔に行進」など。山城博治さんは、「小さな島々で反対の声を上げるのも大変になっているが、孤立させない。沖縄を戦場にさせない、戦争国家にさせない。今日がスタートだ！」

#### 2、辺野古へ、韓国高校生と交流

24日は、沖退教の皆さんにお世話になり、基地巡り。佐喜間美術館では、丸木夫妻の沖縄戦の大作に圧倒される。ガマの中の住民一人ひとりの不安や苦悩の表情が胸に突き刺さる。

その後、辺野古へ。思いがけず、そこに韓国の修学旅行の高校生が引率教員とともに来ていて、高校生も

一緒に基地前で座り込む。高校生は歌とダンスのパフォーマンスも見せてくれた。うわー、韓国の高校生の方が、自由に学び、学ぶ自由を享受しているのではないか。高校生たちの屈託のないまっすぐな表情



にうれしくなる。

主催者からの伝言「今は、座り込んで抗議しても、機動隊と接触しないようにしている。全国からさらに多くの方が参加してください」と。

辺野古の新基地は、軟弱地盤があり少なくともさらに15年以上かかる。普天間返還の約束が踏みにじられても、政府は米国に何も言わない…。

#### 3、沖縄の人々の迫りくる戦争への危機感

政府は、軍拡と米軍、安保条約で日本の平和を守るといっているが、沖縄の現実が示しているのは真逆だった。ミサイル基地、台湾有事を想定した日米共同訓練、それらが戦争を引き寄せていないか。

伊波洋一さん(参議院・沖縄の風)の話によれば、米国には台頭する中国を抑え込むため中国と戦争する動機があるという。台湾有事での米国の戦略は、空母などの主要部隊を中国のミサイル射程圏外に遠く退避させ、小編成の部隊だけを日本に残し、自衛隊と共同で沖縄の島々を転戦して中国をミサイルで叩くのだという。米国本土は安全で、戦場になるのは沖縄と日本本土だ。そのうえ、日本がミサイルで中国攻撃の肩代わりをしてくれるとしたら、米国には願ったり叶ったりだ。米国が戦争に火をつけ、主に戦うのは日本ということになりかねない。

沈没船からネズミが逃げないように、米軍基地の住宅地から米軍の家族がどんどん居なくなっているという。フェンス越しに、その米軍住宅の閑散とした状況も見せてもらった。沖縄の人の迫りくる戦争への危機感もよく分かった。

平和の思いを声に出して行動しよう。日本と米国と中国、すべての軍拡、戦争に反対しよう。沖縄を孤立させない。今日がスタートだ！

(高田 良衛)



# 日退教 第30回組織活動交流集会報告

今年度の組織活動交流集会は、コロナ禍の影響で関東ブロックの交流集会を経ない形で10月13日に開催された。午前の組織現況報告（報告者平岡事務局長）では、会員数が昨年比約2400名（約6%）も減少したこと、今年度からの定年延長により退職者がいないため会員の減少が続くこと、各組織でのジェンダー平等の状況について、などの報告があった。

午後からの活動報告は、2つの分科会に分かれての報告・討論であった。私は、自分の報告の関係で第2分科会に出席したので、その報告・討論を紹介させていただく。

## 第2分科会報告

次の5つの報告があった。

- ①平和副教材からの「はだしのゲン」削除問題（広島）
- ②平和劇を子ども達に（大分）
- ③安倍国葬違憲・損害横浜訴訟（神奈川高）
- ④都高退の活動（東京高）
- ⑤高退教活動って？（熊本高）

③の報告者は私だが、内容については、会報52号（2023年9月）の日退教総会報告の中で、討論の紹介で述べているので省略させていただく。その中で、広島と大分の2本の報告を紹介する。

広島県では、2013年から4種の副教材（小低・小高・中学・高校）が、授業で平和教材として使われてきた。県教委は、「被爆の実相に迫りにくい」として「はだしのゲン」を副教材から削除したのである。この発表があつてからすぐに、両教組、両退教を始め多くの民主団体から抗議が寄せられたが、県教委は削除を撤回していない。

教育現場のアンケートでは肯定的意見が多かったと、県教委自らが述べていたにもかかわらず、2021年からの検証委員会では、削除することを前提とした協議が行われてきたという。また、同時に「第5福竜丸」の記述も削除されたという。

NHKのクローズアップ現代や各紙もこの問題を取り上げた結果、全国で「はだしのゲン」は大幅

に売り上げを伸ばしている。しかし、広島県教委の姿勢は大問題である。

大分県からは、中津市の15人の退教会員の皆さんが、「大根の花」と言う劇団を9年前に結成し、平和劇の上演活動を行っている報告があった。歳のため台詞を覚えきれないから「平和朗読劇」として、地域や小・中学校での上演を行ってきた。コロナ禍で上演機会が少なかったが、今年に入ってから徐々に声が掛かるようになったという。学校での上演に、管理職からの圧力が無いというわけではないが、現職の教職員との協力で上演を広めていきたいという前向きな姿勢に共感を覚えた。

（早川 芳夫）

## 第1分科会報告

### 京都府退教（川端 宏幸さん）

教育のセーフティネットについて考える——自主夜間学校「いいあす京都」の挑戦——

公立の夜間中学は全国で17都道府県44校存在して、今後11県で設置予定である。公立の夜間中学校は最後の砦にならない。これは「原則として、高卒以上の方は義務教育を受けているものとして、入学の対象にしません」という条項で、高校の「形式卒業者」は入学を拒否される。また毎日通学できない生徒も夜間中学通学は困難である。こういった問題から誰でも受け入れる「自主夜間学校」が必要であり、自主夜間学校「いいあす京都」が生まれた。この学校の母体となったのは、「京都府部落解放センター」であり、京都の同和教育が発展した解放教育の延長上に自主夜間学校「いいあす京都」が生まれたわけだ。自主夜間学校「いいあす京都」は夜間中学洛友の補完的役割も果たしており、多くの「教育難民」が「小さな喜びを感じ、小さな幸せを見つける」手助けをしている。

### 静岡県退教（山田 勝洋さん）

～若い人にどう「戦争の記憶」を伝えるか～

8月19日「夏・平和の会」が開かれました。そこで「私たちの多くは戦時中、幼児が戦後に生ま



れた世代ですから、戦場での経験はもちろんなく、空襲も、疎開を「体験」してもほとんど覚えていません」というところからスタートした。1945年4月4日の清水空襲について現在参加者が居住している関係で話題になった。今まで親に聞いたこともない人がこれを機会に聞こうと思ったとか、どこが被害がひどかったが話題になった。また当時多くの人が行っていた満州のことも話題になった。私たち自身が過去の「戦争」であれ、傍観者であっては若い人に「戦争」を語ることはできない。身近から「戦争」を共有化して若い人に伝えていきたい。

### 北海道退教(筒井 比呂志さん)

「組織強化に向けた北退教の活動について」

北退教は24の地域退教の連絡組織で会員は約4千人全国一の会員数です。現在、定年延長と教員の人・地域とのかかわり避ける傾向で会員数が減少の傾向にある。そこで現職支部と連帯して現退一致の活動に取り組むことで組織拡大をはかっている。現退で取り組んできた「アイヌの授業」の資料集の完成や大規模風力発電建設事業反対の取り組みなどがその実践である。さらに健康と生きがいのための親睦交流、親睦旅行、研修会等の活動をすすめ組織拡大につとめる。

### 愛知退教連(沖田 了紀さん)

「組織拡大・強化と愛知退教連の目的」

2017年現職の組織構成の変化(「県費負担教職員の給与負担等の道府県から指定都市への移譲」をふまえて)から「愛知県退職教職員協議会(愛退教)」と「名古屋市退職教職員協議会(名退教)」が組織された。そして愛退教、名退教の連合会である「愛知退職教職員連合会(愛知退教連)」が生まれた。現在、退教連と退職公務員連盟の違いを理解してもらえないことなどから組織率の減少がすすんだ。そこで、この歯止めをかけるべく地区の校長会の会合において、入会を呼びかける取り組みをはじめた。この結果、減少傾向にストップがかかった。愛知は、組合・校長会・教育委員会とPTAが手を携えて愛知の教育をよりよいものにしてきた。また現退一致の運動とりわけ地方選挙において組合の組織内候補がトップ当選を果たせたことが成果としてあげられる。

この他、**鳥取退教**「島根原発2号機運転差止仮処分裁判への取り組み」**山口退教**「山口県の民衆は負けない」がレポートとして提出された。

(石橋 功)

### 日退教・組織活動交流集会に参加して

今期役員になり初めて参加しました。現役時代には全国教研に傍聴・レポーター・司会として何度となく参加してきました。いわゆる少数職種である現業職の課題は「民主的な職場作り」という分科会でのテーマでしたが、義務制の学校に勤務する現業職員は市町村職員であり、組合は日教組ではなく自治労の組合員です。分科会に出席する人の多くは義務制の教職員であるため当初は理解や共感に時間を要しましたが、毎年レポートを出し続けていく中で議論がかみ合うようになってきました。

そういう経緯の中で交流集会に傍聴してきましたが、規模は小さいですが全国教研のシニア版という感じがしました。

全体会后、参加した分散会で印象に残ったのは広島からの『「はだしのゲン」削除問題から考える』でした。概要は2013年に市内の小・中・高で副教材として使用していた現行の「ひろしま平和ノート」が2023年に改訂され、小学校3年生で使用されていた「はだしのゲン」が、中学3年生の教材では「第五福竜丸」も削除されました。

5月にG7広島サミットが開催され、議長国であり被爆県選出の岸田は声明「広島ビジョン」で「核抑止政策」を容認しました。また各国首脳の平和資料館の見学も原爆の悲惨さ凄惨さを展示している本館は見せず、当初1時間の予定も40分で終了しました。

「平和ノート」の改悪とサミットの開催が偶然重なったとはどうしても思えません。国連の「核兵器禁止条約」にアメリカの「核の傘」を理由に批准しないのも根は同じだと思います。

(芳賀 保雄)



**五者合同学習会～安心して心豊かに暮らせる社会をめざして～**

10月12日にラポール日教済・山中ホールで日教組・全国退女教・日退教・教職員共済生協・教職員相互共済会の共催で標記の学習会が行われました。その中で午前午後に分けて二本の講演があり、それぞれから特に印象に残った内容を以下に紹介します。

**「関東大震災時の朝鮮人虐殺はいつ**

**どこで起こったのか**

専修大学教授・田中正敬さん

**○流言はどのように拡げられたか**

9月1日正午近くに震災が起こり、約1時間後に軍の東京衝戒司令部が「非常警備に関する命令」を出し、翌2日「非常徴発令」、「戒厳令」が發布された。

通信手段と権威を持つ政府が流言を拡げたとの見方もある。当時の警視庁官房主事が1日の夜、新聞記者を集めて「朝鮮人が謀反を起こしているという噂があるから、各自気をつけろということに触れてくれ」と頼んだという証言もある。内務省からは2日に埼玉県郡町村長宛に、「東京に於いて不逞鮮人の妄動有、在郷軍人分会・消防隊・青年団等は一致協力して、その警戒に任じ、一朝有事の場合には、速やかに適當の方策を講ずる様至急相当御手配相成度」と。3日には無線で各地方長官宛に、「東京付近の震災を利用し朝鮮人は各地に放火し目的を遂行せんとし…厳密なる取締を加えられたし」と打電の記録もある。

**○関東大震災における殺傷事件の実態**

東京では、1日夜半、月島で軍隊が朝鮮人を撲殺。2日の戒厳令施行以後、小松川他で朝鮮人を虐殺。3日、大島町で中国人虐殺。5日、平沢計七はじめ社会主義者を軍隊により虐殺。神奈川では、2日に高島町・神奈川・横浜港で中国人虐殺の記録、横浜およびその周辺で朝鮮人虐殺の記録。4日、鶴見で自警団による朝鮮人虐殺。千葉・埼玉・群馬でも4日以降、自警団や民衆による朝鮮人の虐殺が記録されている。何故これらの事件が続発したのか、それは日本の植民地支配による内在的な恐れがあった。

○関東大震災朝鮮人虐殺から百年・現在政府の対応  
杉尾秀哉参議院議員(立憲民主党)「当時の記録はそのままコピーされて、これ国会図書館でし

かもインターネットで検索できるんですよ。あるんですよ」

楠内閣官房長「政府といたしまして調査した限りでは、政府内に事実関係を把握する事ができる記録が見当たらなかったことから、仮にご指摘の史料を確認しても、その内容を評価することは困難であるというふうに考えているところでございまして、ご理解いただければと考えております」

**「東アジアでの戦争をいかに回避するか**

**～軍備拡大でなく、沖縄を平和のハブに！～**

青山学院大学名誉教授・羽場久美子さん

始めにZ世代と呼ばれる若者達の多くが単純に「ウクライナ頑張れ、ロシアをやっつけろ」というレスをネットに上げている現状を指摘され、次の5点についてデータをもとに問題提起された。

- 1) いま世界は大変動期にある。世界人口で考えると、欧米近代の時代は頭打ちとなり、ゆっくりと終焉に向かっている。それに代わり、アジア(中国,インド,ASEAN)の急速な経済成長があり、先進国があと10年・30年・50年で入れ替わる！
- 2) ロシア・ウクライナ戦争と、アジアの戦争準備は密接に関わる。米の覇権が世界を主導する時代は終わりつつある。その恐怖から、ロシアの背後にいる中国の成長による米の覇権の終焉を恐れ、「軍事化」で自国を守ろうとしている。その戦争に同盟国を使う。
- 3) 植民地の時代に欧米はアジアの豊かさを吸い取って成長したが、アジアの国々は独立後急成長を遂げていることが経済統計によって裏付けられている。特に、AI・ITの発展、人口増加ではインド、アジアそしてアフリカの国々が欧米を上回りつつある。
- 4) 経済vs軍事で、短期的には米欧の軍事戦略が勝つ可能性あり。しかし、欧日は米に「巻き込まれ」と「見捨てられ」の末路が待っている。
- 5) 以上を踏まえ、いかに平和と繁栄を作るか？日本から提言。ミサイル軍拡ではなく経済共同・外交(信頼醸成)・地域の繁栄により米・G7とグローバルサウスに橋を架けることが日本の役割。沖縄・自治体をハブとする、平和の広範な連携が安定と繁栄を導く！

(平形 裕史)



## 「教育はどこへ向かうのか」

豊嶋 道子

シニアの皆様、こんにちは。

先日、衆議院議員会館というところへ行ってきました。私がネットでよく覗く「change.org」という署名サイトで知ったのですが、院内で「国立大学法人法『改正』案に反対する緊急集会」があり、参加して来ました。マスコミも大勢来ており、大学関係者が、「これは大学自治への死刑宣告に等しい。第二の『学術会議問題』だ。」と訴えていました。「国立大学法人化以来、運営交付金は大幅に削減され続け、交付額は『国が決めた目標（軍事研究）』の達成度次第。研究・学問の場として国立大学は瀕死の状態。しかも、今国会に上程される法案は、教授会や学長の上に『運営方針会議』を新たに設置、構成委員は過半が学外の経済界の人間。文科大臣の『承認』によって任命され、大学運営方針・人事・研究分野・予算配分など、絶大な権限を持つのです。そして将来すべての大学に同様の組織を求めていくとも聞いている。」

研究・教育機関としての大学を、兵糧攻めにしたうえで政府・産業界のコントロール下に置こうとする意図が明白です。「軍事研究は行わない」という声明を出した日本学術会議は6名の方が政府に任命拒否されましたが、今、この法「改正」も大学の自律性を根こそぎにし、国策研究を担わせるための機関へと大きく作り変えようとするものなのでしょう。大学関係者さえ直前まで知らされず、議論する間もなく国会にかけられたこの法案は、衆参両院であつという間に可決されてしまいました。マスコミが大きく取り上げることはありませんでした。

なんだか、高校で職員会議が「議決機関」ではなくなった時のことを思い出しました。現場は意味があるとは思えないやらされ仕事で多忙化し、授業の内容や密度も、生徒との関係性も変わりつつあるように思います。

昨年県教委は文科省の新学習指導要領の実施を

受けて、単元ごとの「指導と評価の計画」を現場に求めてきたそうです。内容は「単元ごとに」「学習指導要領の指導項目で目標を設定」「目標の達成度のみが成績につながる、記録に残す評価となる」と言います。文科省が定めた項目で目標設定し、それによってしか評価できない？まともに捉えたら、指導要領の指導項目以外は成績にならない、テストにも出題できないことになります。それは現場にとって、特に国語や社会科にとっては全くあり得ない話。それでも「指導と評価の計画」は提出せざるをえず、文科省の指導要領を読み込み、県教委の意向を気にしながら、苦心して文章化しようとする。今はそこまで済んでいるようにも見えますが、評価で縛られるということが授業そのものに与える影響は決して小さくはないでしょう。また、「大綱的基準」であったはずの指導要領が、教室の個々の授業にまで直接に及ぶ形ができてしまったのではないかと危惧しています。国が定めた目標・方法で授業する（せざるを得ない）教員、評価される生徒、息苦しいですよ。でもそれが「当たり前」になっていった時に、ロシアでの愛国心教育のような、国が個人の内面を統制するような教育に傾いていかないか、心配です。

観点別評価は神奈川に始まり今では全国に及んでしまいました。テストも共通テスト化が進んでおり、授業内容も画一化の方向にあります。自由で創造的な教育の実現は、今や教員個々のレベルでの苦しい努力によるものとなっています。

戦後、戦争協力への痛切な反省から「学の自律」は掲げられました。でも今それが危機に瀕していることに、「新たな戦前」を思うのは杞憂でしょうか？





## 老いて学べば死して朽ちず — 私のシニアライフ —

小林 克則 (08. 厚木商業)

60歳で定年退職した時、給料が半分になって今までと同じ仕事をするのか、とあって再任用を断りました。県教委の教員へのしめつけが厳しくなっていたことに反発する気持ちもありました。時間講師にもならず、すっぱりと無職になって、せいせいした気分になりました。

しかし、年金はわずかで、退職金はみるみるうちに減っていきました。学校やPTAの歓送迎会が終わって、家事以外にすることが無くなったころから、伊勢物語の主人公のように、「用のない自分」に苦しめられました。今思うと「定年鬱」だったのです。唯一属していた神奈川歴史教育研究会の仲間とは年に数回会うだけであり、「仕事」とは言えません。

無芸大食で、これといった趣味もなく、教員以外の仕事をしてこなかったのが、教育関係の仕事はないかとアンテナを張りました。「捨てる神あれば、拾う神あり」で、専修大学の講師をやらないかとオファーがありました。さっそく飛びついて、翌年から教職教養の「外国史」を毎週教えることになりました。テーマはなんでもよいとのことでした。そのため、世界史教員としての教養とは何か、を考えることになりました。

あれこれ考えた末に、宗教の歴史と歴史学の展開をメインにカリキュラムをつくってみました。そして、授業のレジュメと資料をつくるために机に向かう日々が始まりました。

同時に、朝日カルチャーセンターの通信教育講座の仕事がまいこんだのです。『やり直す世界史』というタイトルで、受講者は高校世界史教科書をテキストにして課題に取り組み、私が添削して返送するものです。私は、初任校が厚木南高校通信制でしたので、昔取った杵柄でした。

こうして、定年鬱は解消し、自由裁量の多い仕事に満足する日々が続きました。浪人時代以



上に机に向かうようになりましたが、やらされているという気持ちがないため、楽しいものでした。でも脳にエネルギーを供給するため、食べてばかりいて、かつてない体重

になりました。

働き始めて数年、11月の寒い日に近所を歩いていると、突然目の前が真っ白になり、足はふらつき、何度も吐きました。運のよいことにそこは消防署の前だったので、救急車で病院に運ばれ、初めて脳のCTスキャンやMRI検査を受けました。異常なしとのことで帰宅できましたが、健康診断の結果はひどいものでした。「生活習慣病」とはよく言ったものです。それから毎日の筋トレと散歩をはじめ、飲酒もセーブしています。

私達の世代の多くが経験しているように、私も倒れた母のケアに、妻と弟とローテーションを組んで、3年間北海道の旭川に通いました。母が亡くなったのは新型コロナウイルスのパンデミック以前でしたので、最後まで看取ることができました。

70歳を越して、大学の仕事もなくなり、第2の定年鬱になりましたが、ときどき公民館などで講演を頼まれて、机に向かっています。歳相応に歯も目も心臓も肝臓もがたがたですが、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ侵攻に怒る気持ちは衰えません。

さて、江戸時代の儒者の佐藤一斎は、「わかくして学べば、壮にしてなすことあり。壮にして学べば、老いて衰えず。老いて学べば、死して朽ちず。」と語っています。スペインの画家のゴヤには、「俺はまだ学ぶぞ」という絵があります。私もこれらを座右の銘として学び続けたいと思っています。

(2023年11月記)